

開会 村上会長挨拶

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今回はこのような形で総会を開催することになりました。緊急事態宣言が解除されたとはいえ、いまだに医療機関ではクラスターが発生し、感染の第2波第3波が懸念されるなかで、会員校におかれては、日々オンライン授業やシミュレーション教育等教育方法の工夫に尽力されていることと推察いたします。また前期の助産学実習は、延期や中止になる学校も多く、残り9ヶ月ほどで本年度の助産師教育の質を担保していくのか我々教員の肩にかかっております。今後は、コロナを避けるだけでなく、共に生きる生活の中で教育を考えていく必要があります。

本協議会では、6月1日に会員校に対して「助産学実習2020学内実習指針」を作成し、分娩介助が10例に達しない場合に備えての対応策を提案させていただきました。各養成機関で状況に応じて柔軟に活用いただければと思っております。

本来であれば総会において、厚生労働省や文部科学省からご挨拶をいただき、最新の教育や母子保健の現状についてご講義いただくところですが、現在の状況ではそれもままなりません。各省庁より情報をご提供頂いておりますので、ホームページに掲載させていただきます。ぜひ御覧ください。

例年とは異なる総会となりますが、本日の議事が順調に進行できますようご協力をお願いいたします。以上簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

閉会 渡邊浩子副会長挨拶

今年度は、議決行使書面による総会への出席ありがとうございました。皆様方におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、助産師教育の方法・内容に変更を余儀なくされ、奮闘されていることと存じます。今回の新型コロナウイルス感染症は、私たち教育者に負の影響のみをもたらしただけではなく、新しい教育方法の在り方を教えてくれました。従来の教育方法は危機管理体制がとられていなかったこと、最新のICT技術が教育に活用されていなかったことなどを教えてくれました。助産診断・技術は学生のレベルを対面で確認することが基本ですが、学生の質の担保を図るICT技術を取り入れた効果的な教育ツールがあることも私たち教育者は知っておく必要があります。

本協議会では、会員の皆様の学習ツールとしてe-learning研修を始めており、更なるコンテンツの強化を図る必要性を感じております。今後も本協議会では、会員校の教育の現状を把握し、皆様の声に耳を傾け、会員校に寄り添う協議会として発展してまいります。本日はご出席頂きありがとうございました。閉会のご挨拶とさせていただきます。